

表 3.8 試験施工計画概要表

項目	試験の目的と概要
試験施工計画概要	<p><b>【目的】</b>                      ストアス(80/100)、TR-FA の2種類のアスファルトで製造したアスファルト混合物を用いて試験施工を実施し、各種施工方法や、条件の設定を行うとともに、実際に舗設された混合物が所定の性状を確保しているかを確認し、本施工のための施工管理基準を決定する。</p> <p><b>【概要】</b>                      試験施工は現堤体を使用し2ステップで行う。</p> <p>①ステップ1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転圧回数の設定（初転圧回数を3水準変化させ、コア密度により評価する。）</li> <li>・ タックコートの影響確認（タックコート散布の影響を基層付着試験により確認する。）</li> <li>・ 他に施工管理上、試験施工で決定する必要があることについて予備的な確認を行う。                         <ol style="list-style-type: none"> <li>1.清掃面の確認（目視観察）</li> <li>2.切削前後の損傷の状態（目視観察）</li> <li>3.アスファルト種類ごとの施工性確認（目視観察、密度）</li> <li>4.ジョイント変形量（測量）</li> <li>5.ジョイント加熱温度（温度計）</li> <li>6.切削、舗設厚さ確認（測厚）</li> <li>7.タックコート面の確認と散布量測定（目視確認及び散布量試験）</li> <li>8.敷き均し、転圧面の目視確認（目視観察）</li> <li>9.非定常部の施工状況確認（密度）</li> </ol> </li> </ul> <p>②ステップ2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工標準と施工管理基準の設定</li> <li>・ 温度管理基準の決定（温度を3水準変化させて、コア密度により評価する。）</li> <li>・ 基面清掃方法の決定（3種類の基面清掃方法について、清掃面を目視確認し、基層付着試験により評価する。）</li> <li>・ ジョイント整形、加熱手法の決定（ジョイント変形量、ジョイント加熱温度を測定し、曲げ試験、間接引張り試験により評価する。）</li> <li>・ 基層加熱温度の確認（敷き均し直前の基層の加熱状況を確認）</li> <li>・ 他に施工管理上、試験施工で決定する必要があることについて確認を行い施工管理基準値を決定する。</li> </ul>

表 3.9 試験施工計画概要表(つづき)

1. 切削前後の損傷の状態（目視観察）
2. 切削、舗設厚さ確認（測厚）
3. タックコート面の確認と散布量測定（目視確認及び散布量試験）
4. 敷き均し、転圧面の目視確認（目視観察）
5. アスファルト種類ごとの施工性確認（目視観察、密度）

③試験施工工程

試験施工は本施工時期と同様の9～10月頃に実施する。

④本施工における管理基準値の策定

施工時に所定の品質を確保するために試験施工を通して、施工方法と施工管理基準値を策定する。現時点での暫定規格値を示す。

工程	管理項目	管理工程	管理方法	暫定規格値
切削工	切削深さ	施工後	測高	-10mm
表層工	敷き広げ温度	敷きならし直前	測温	試験施工結果による
	転圧温度	転圧開始時	測温	試験施工結果による
	舗装厚さ	施工後	測厚	-7mm(平均:設計以上)
	密度	施工日毎	使用量と体積による	基準密度の98%以上
保護層工	真空試験	施工後	ジョイント部で測定	666.6hPaの減圧をかけ圧力上昇が66.6hPa/3min以下
	施工温度	施工開始直前	測温	試験施工結果による
	厚さ	施工日毎	使用量と面積による	設計値(2mm)以上

【まとめ】

試験施工結果から、両アスファルトの施工性を確認し、最終的な配合や、施工方法及び管理基準値を決定する。また、切削前後の損傷の状態を確認し、補修工法の妥当性を確認する。

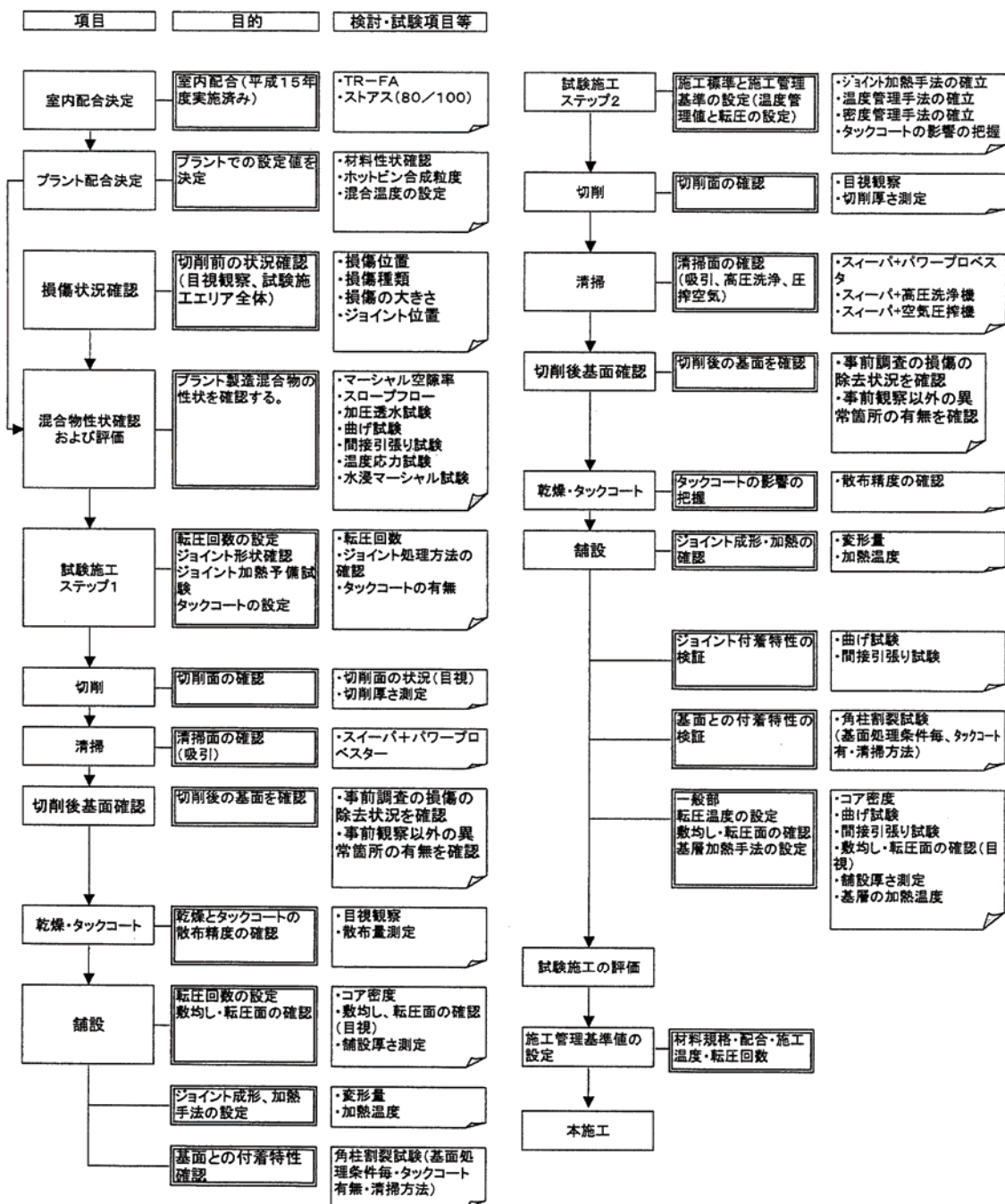


図 3.4 試験施工フロー

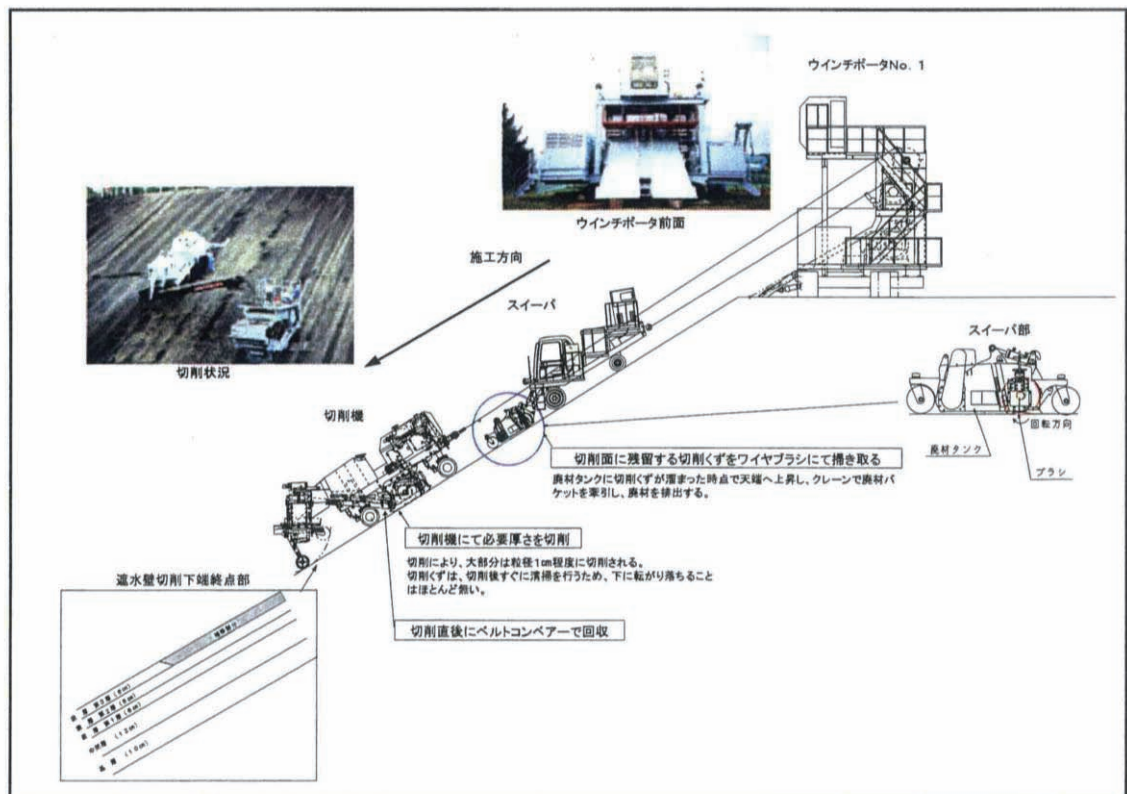
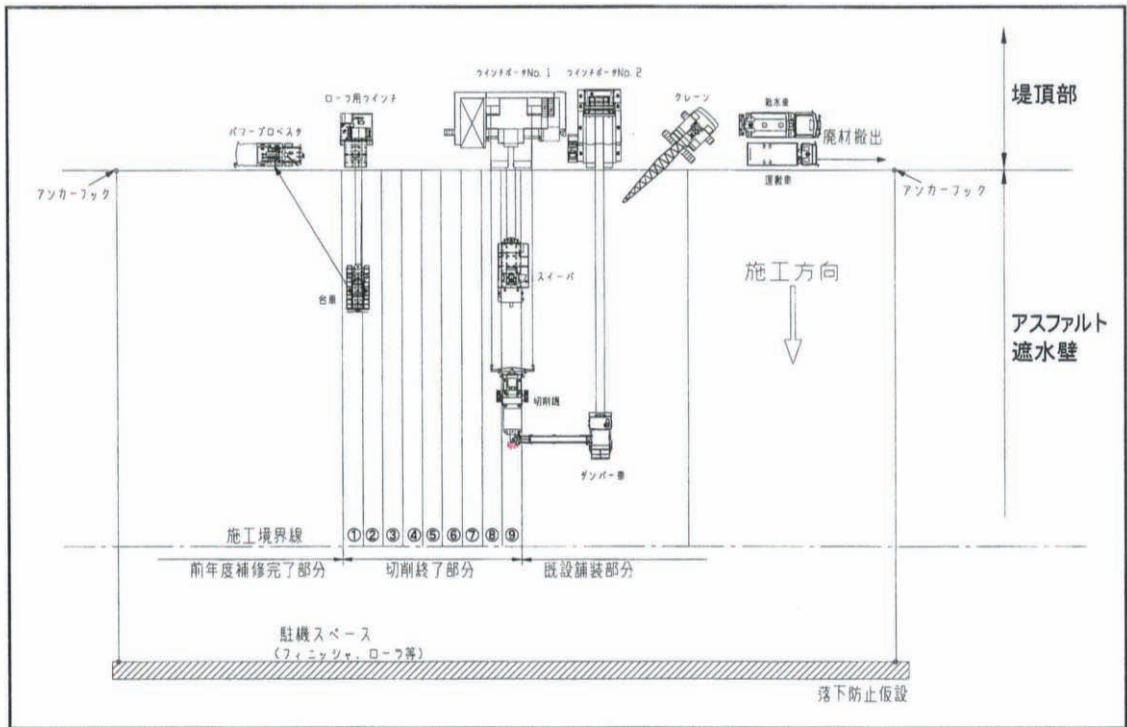


図 3.5 切削・清掃工概念図

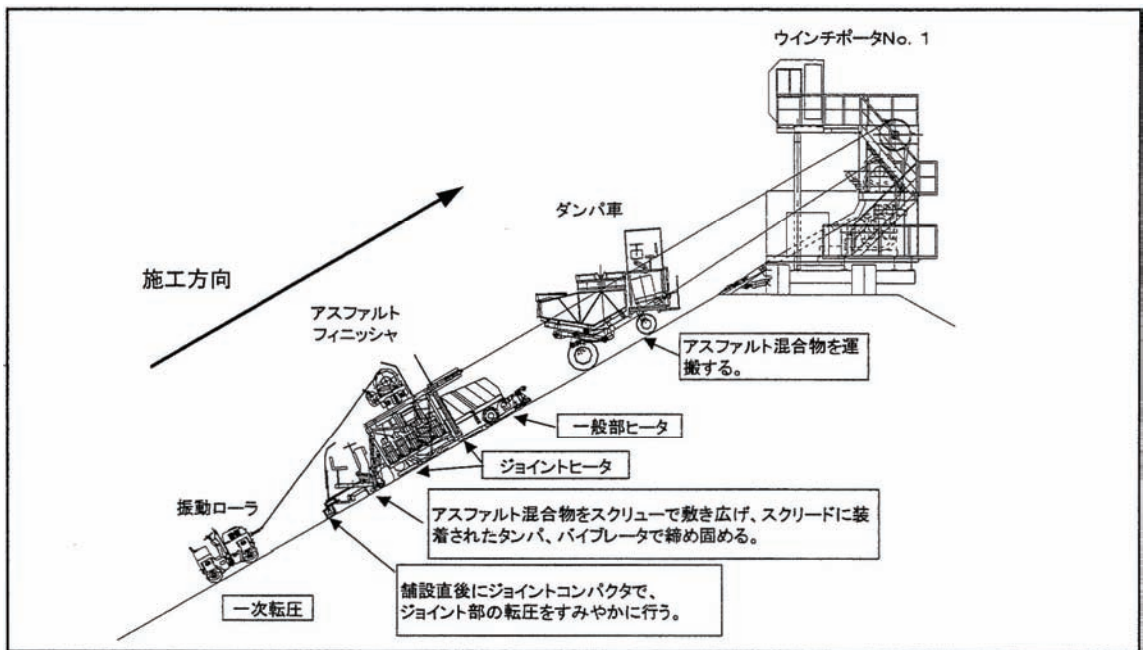
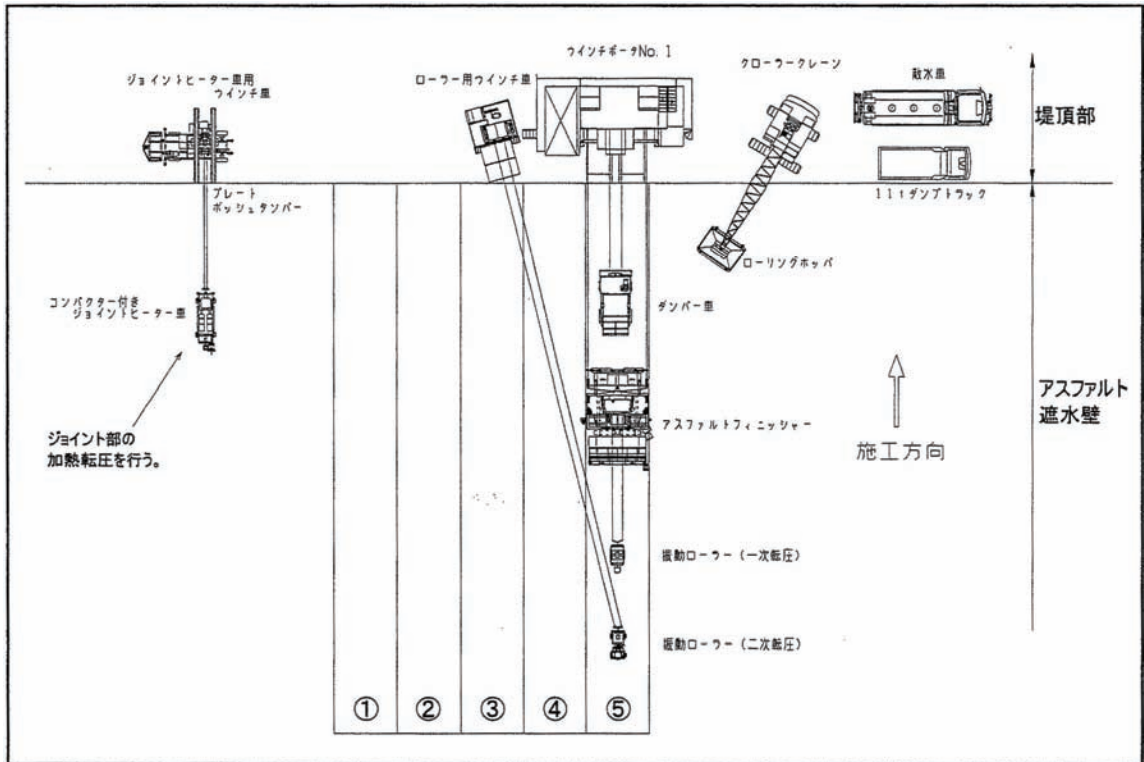


図 3.6 舗設工概念図